

## 目で見ると 聖イグナチオの靈操入門

ホアン・カトレット 著  
中島俊枝 訳



本体 **800円** + 税

• 115×175 • 144頁 • 並製

## 目で見ると 聖イグナチオの靈操入門

ホアン・カトレット 著 中島俊枝 訳

「現場の想設（観想しようとするところがらの起こった場所を、実際の創造の目で見ると）」という祈りの方法は、聖イグナチオ・デ・ロヨラの著した『靈操』の中に用いられて、重要な役目を担っています。

本書は、この「現場の想設」の祈りにポイントをおいて、靈操の要点を紹介しています。

人間を単なる「理性を持つ動物」としてではなく、「五感、記憶、想像力、意志、生き生きと躍動する心を賜った人」としてとらえる聖イグナチオは、私たちが全存在をあげて神に近づき、福音に現れるキリストを身近に体験することを願うのです。

読者が本書を読みながら、四週間の靈操を実践して、この「現場の想設」によって聖書のさまざまな箇所を黙想あるいは観想してみてください。

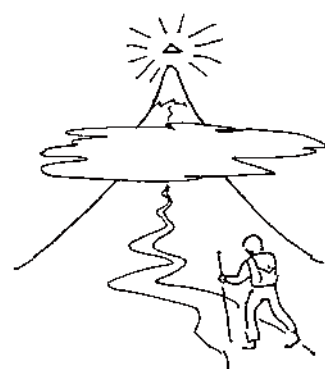
|    |              |               |
|----|--------------|---------------|
| 目次 | はじめに         | 原理と基礎         |
|    | 第一週 清めの道     | 第二週 照らしの道     |
|    | 第三週 一致の道 (I) | 第四週 一致の道 (II) |
|    | 愛を得るための観想    | 祈り            |
|    | あとがき         |               |



喜びを分かち合う……それは、二つの心をさらに深く結びつける。「喜ぶ人と共に喜べ」（ローマ12・15）と聖パウロは言う。聖イグナチオは、「私たちの主キリストのあの栄光と喜びを心から喜び味わい、楽しむ恵み」を願う（靈操221）。



第三の方法——魂が冷静に理性的に見きわめる。まず、あることを選んだ場合の利益と不利益を考え、次に、それを選ばない場合の利益と不利益を考える。ある仕事を受けるか受けないか、修道召命か結婚生活か……。そして、両方をはかりに掛け、重い方、つまり、理性的に自分が傾く方をとる（靈操177、181）。



私たちは、一歩歩み続ける。神という山を目指して……。『人間は、主である神をほめたたえ、敬い仕え、そうすることによって、自分の靈魂を救うよう創られている』（靈操23）。